

各 位



2022年9月30日

会社名：スターティアホールディングス株式会社

代表者名：代表取締役社長 兼 グループ最高経営責任者 本郷 秀之

(コード番号 3393 東証プライム)

問合せ先：取締役 兼 グループ執行役員 植松崇夫

(TEL：03-5339-2109)

第2四半期（累計）連結業績予想、並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期第2四半期（累計）連結業績予想、並びに通期連結業績予想につきまして、下記のとおり修正することをお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期の第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正

(2022年4月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想	8,600	270	270	162	18.56
今回発表予想	9,585	620	690	464	53.11
増減額	985	350	420	302	
増減率	11.5%	129.6%	155.6%	186.2%	
前期実績	6,991	127	271	394	39.87

2. 2023年3月期の通期連結業績予想数値の修正

(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想	18,000	700	700	420	48.12
今回発表予想	19,385	1,100	1,170	752	86.10
増減額	1,385	400	470	332	
増減率	7.7%	57.1%	67.1%	79.0%	
前期実績	16,011	344	553	958	100.02

3. 修正の理由

(1) 2023年3月期の第2四半期（累計）連結業績予想について

IT インフラ関連事業につきましては、アプローチ、商談・提案、受注、納品までの一連の流れを組織とシステムによる仕組みが前期までで整ったことで、当第1四半期から想定以上に営業の回転率が向上いたしました。その中で特に、第1四半期より中小企業の情報セキュリティ対策のニーズを捉え、情報セキュリティの主力製品であるUTM（統合脅威管理）を中心としたネットワーク機器の導入が好調であることと、引き続き、MFP（複合機）におけるパートナー販売が好調に推移しており、売上高が大幅に増加見通しとなることで全利益段階におきましても増加の見通しとなります。

デジタルマーケティング関連事業につきましては、引き続き新たな組織体制構築に注力しており、概ね計画通りの推移となっております。

販売費及び一般管理費につきましては、主にITインフラ関連事業における採用計画の遅れによる人材関連費用が第3四半期以降にずれ込んだことと、設備投資計画も第4四半期にずれ込む為、第2四半期累計期間としては圧縮される見通しです。また、全社共通費用における消耗品等経費を圧縮したことに加え、一部システムと備品等設備投資の時期を第4四半期へ変更した為、第2四半期累計期間としては販売費及び一般管理費が圧縮となります。

特別利益において、本日公表の「持分法適用関連会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ」のとおり、関係会社の一部株式譲渡により、約55百万円を計上する見込みです。

(2) 2023年3月期の通期連結業績予想について

ITインフラ関連事業において、前述の(1)の通り、第2四半期までに売上高と全利益段階が当初見通しを大きく増加することが通期連結業績にも寄与することに加

え、第3四半期以降もネットワーク機器商材とMFPが堅調に推移するものと予想しております。

一方、前述の(1)における販売費及び一般管理費の通り、ITインフラ関連事業の人材関連費用が第3四半期以降にずれ込み、設備投資計画も第4四半期にずれ込む見通しに加え、全社共通費用の一部システムと備品等設備投資の時期を第4四半期に変更した為、第3四半期以降の販売費及び一般管理費が増加する見通しですが、いずれも期ずれによるものの為、通期での影響はありません。

以上のことから、第2四半期連結(累計)業績および通期連結業績における売上高および営業利益、経常利益、当期(四半期)純利益の全利益段階において大幅に増加する見通しの為、当初の業績予想の上方修正を行うことといたしました。

※上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、速報値となります。実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上